

令和5年度 外部評価シート

施設名	兵庫県立兵庫津ミュージアム	現指定管理期間	令和4年～6年(3年間)
指定管理者	アクティオ株式会社	選定方法	公募

1 評価項目ごとの評価 (対象期間：令和4年～5年)

評価項目	評価
維持管理業務	<p>○設備点検や清掃を定期的実施し、来館者が安全・安心して利用できる環境づくりに努めている。</p> <p>※利用者アンケート…回答者の約9割が、「施設は清潔に保たれている」と回答。</p> <p>○1階に授乳室を整備し、親子づれの来館者等への利便性向上を図っている。</p> <p>○警備員を配置し不審者対応や来館者の事故未然防止等に備えている。また、救護室を整備し体調不良を訴えた方への配慮も行っている。</p>
運営業務	<p><b>【事業実施】</b></p> <p>○令和5年度は、企画展・テーマ展を4回開催するとともに、季節イベントや各種歴史講座など多彩な事業を展開しており、館の認知度向上、兵庫津エリアの活性化に寄与している。</p> <p>※利用者アンケート…「ひょうごレゴ展」では、約9割が展示内容に満足と回答。家族で楽しめる企画内容を評価する意見が多く寄せられた。</p> <p><b>【広報】</b></p> <p>○ホームページを開設するとともに、SNSを積極的に活用し、若者世代への広報も重点的に展開している。現在、Instagram 登録者は約1,800名、X登録者は約1,300名であり、さらなる登録者増に向けキャンペーン等を実施。</p> <p>○各種イベント開催時には、チラシ・ポスターを製作し、近隣施設であるイオンモール神戸南店や神戸市交通局等と連携し、広報を展開している。</p> <p><b>【公平性の確保】</b></p> <p>○事前募集を行っているイベントについては、定員を超えた場合は、抽選により当選者を決定するなど公平性を担保している。</p>
利用状況	<p><b>【利用者数】</b></p> <p>○R5年度の施設利用者数は21万3千人 (R5.12月末現在) となり、年間目標の20万人を達成している。</p> <p>○利用者の年齢割合では、未就学児と小学生で5割を越えており、子ども達を含め幅広い世代に利用されている。</p> <p>※来館者調査…未就学児 26.4%、小学生 23.6%          中学・高校生、支援学校 8.2%、大人 40.8%</p> <p>○校外学習については、学校の要望にきめこまかく対応したオーダーメイド型プログラムで、積極的に受け入れを行っている。今後は、教育委員会と連携し、受入れを拡大する。</p> <p><b>【施設稼働率】</b></p> <p>○貸室利用については、地域の方を中心に利用されている。今後は、利用実例等をPRすることにより、さらなる稼働率アップを図る必要がある。</p> <p>※施設利用実績 (R5.12末) …初代県庁館和室 26%、研修室 53%</p>

収支状況	○令和4年度決算においては、入館料収入に加え、物販・自動販売機収入等により収益力の強化を図るとともに、節電等により施設維持費を削減することにより、決算では収支均衡が図られている。
運営体制	<p><b>【運営方針】</b></p> <p>○県との定例会を毎月開催し、施設運営にあたり、県と指定管理者の両者が兵庫津ミュージアムの運営方針について緊密に連携を図っている。</p> <p><b>【接遇向上、苦情等への対応】</b></p> <p>○対応マニュアルを整備し、来館者への接遇水準を高め、トラブルや苦情対応に適切に対応できるよう努めている。</p> <p><b>【関係機関との連携等】</b></p> <p>○地域団体、神戸県民センター、神戸市兵庫区役所等と、事業を通じ連携体制を構築している。</p> <p>○「兵庫津ミュージアム倶楽部」を立ち上げ(R5.10)、倶楽部員向けイベント等の開催を通じて住民の学びや相互交流を促進している。</p> <p>○「ボランティア」を登録・養成し、館内のガイドやまちあるきガイドツアーなど活躍の場を提供。今後は、自主グループの立ち上げ等を支援していく。</p>
その他	—

## 2 残りの指定期間における改善点

<p>○兵庫津の歴史文化に関する来館者の深い理解を可能とするよう、さらに企画等を充実させる。</p> <p>○引き続き、集客を図るとともに、来館者の満足度を高める視点を取り入れた企画を実施する。</p> <p>○関係機関や地域団体等との連携をより一層強化する。</p> <p>○校外学習の積極的なPRにより、さらなる受入促進を図る。</p>
--

## 3 次期公募に向けた検討課題等

<p>○来館者数など“量的な評価”に加え、“質的な評価基準”を適切に設定する必要がある。</p> <p>○校外学習は、単発のプログラムではなく、複数年度に渡るプログラム等も検討する必要がある。</p> <p>○初代県庁館とひょうごはじまり館の両館の相乗効果により、来館促進を図る必要がある。</p> <p>○ボランティアスタッフのスキルアップを図る。</p> <p>○SNS等を活用した情報発信力の強化を図る。</p>
---

### (参考) 県立兵庫津ミュージアム外部評価委員 (県立兵庫津ミュージアム運営委員)

氏名	主な役職
大本 晋也	南あわじ市学ぶ楽しさ支援センター所長
奥村 弘	神戸大学 理事・副学長
川下 浩	神戸市立明親小学校長
染川 香澄	ハンズ・オン プランニング代表
徳永 恭子	(株)神戸新聞社経営企画局長兼資産活用室長
前畑 温子	NPO 法人 J-heritage 戦略企画室長
松原 永季	有限会社スタジオ・カタリスト代表取締役
松下 麻理	(一財)神戸観光局 神戸フィルムオフィス 広報・メディアリレーション担当部長
古田 菜穂子	(公社)ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサー 兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科特任教授
藪田 貫	県立歴史博物館長